施 策 評 価 シ ー ト

1 総合計画上の位置づけ

担当課： 土木課

施策名	36 治山・治水
政策名	快適な「暮らし」を造る
施策がめざす将来の姿	・河川や急傾斜地崩壊防止施設の整備が進み、豪雨や震災時などにおいても安全な生活を保つことができています。
	0

③ 施策評価指標

成果指標名	単位	後期当初値	令和９年度目標		
排水路整備延長	m	1,208	1,239		
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	250	497	521		

成果指標名	単位	後期当初値	令和９年度目標		
浚渫整備	m	2,337	3,463		
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	2470	3587	4280		

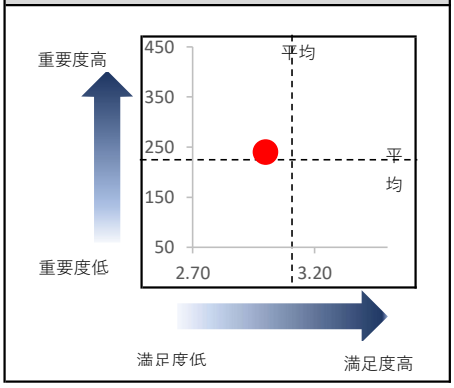
3 施策の重要度と満足度（市民アンケート調査結果）

重要度／単位（人）
令和7年度
240

満足度（満足している市民の割合）／単位（%）		
令和6年度		**令和7年度**
83.9	→	85.3

※増減（→）の基準は３ポイント以上とする

R7重要度・満足度（他の施策と比較した位置）



4 施策の課題と今後の方針

（施策評価指標等の分析のほか、今後重点化していく事務事業について、現状・課題・背景などを踏まえて記載。）

近年の災害は頻発化・激甚化しており、いつ・どこで発生してもおかしくない状況です。災害による被害を最小限に留めるための事前防災対策として、緊急浚渫推進事業債を活用しながら、普通河川における河川浚渫事業（河川内に堆積した土砂を除去することにより、本来の河道断面を確保し、流れを円滑にする事業）を効率的に実施していきます。また、排水路整備については、整備延長の目標値には達していますが、今後も継続的に実施し、排水性の向上を図っていきます。

5 施策を構成する事務事業の今後の方向性

（右欄は、施策を構成する事務事業のうち、今後特に重点化するものに○、縮小するものに△、廃止するものに▲を付す。）

R7決算額（千円）	重点化(縮小)する細事業（主なもの２事業まで）	方向性		事務事業の今後の方向性	重点化
		事業費	成果		
0					